

## 前書き

伝統についての執筆のお話がひょんなことから舞い込んできました。

ふと気が付くと筆の勉強を始めて55年（自分でもビックリ！）そんなに意気込んでやっていたわけではないのですが、いろいろありました。この機会に私の書道を振り返り、書に対しての考えをまとめてみました。

書道会には難しい部分も多々あります。どんなお稽古事にもかたちは違ってもあると思います。そのために続けていくことがしんどくなり辞めてしまった方もいらつしやると耳にします。私も書道会に馴染めず、型にはまらず、展覧会や成績なども気にせず、身近に使えることを中心に続けてきました（団体所属で勉強するのも大事ですが……）。そんな私にも書の古い仲間や弟子がいます。書の道も三者三様、作品も個性的です。

この機会に書展で出品されている作品とはまた違うものも知ってもらい、少しでも書を気軽に身近に感じてもらえたら幸いです。

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a manuscript or a page from a book. The text is written in a cursive style (sōsho) and is organized into several columns. The top of the page features a decorative border with a floral pattern. The text appears to be a religious or philosophical treatise, possibly related to the title "Hon'ami Kyōkoku" (本阿弥切臨) mentioned in the caption.

本阿弥切臨

